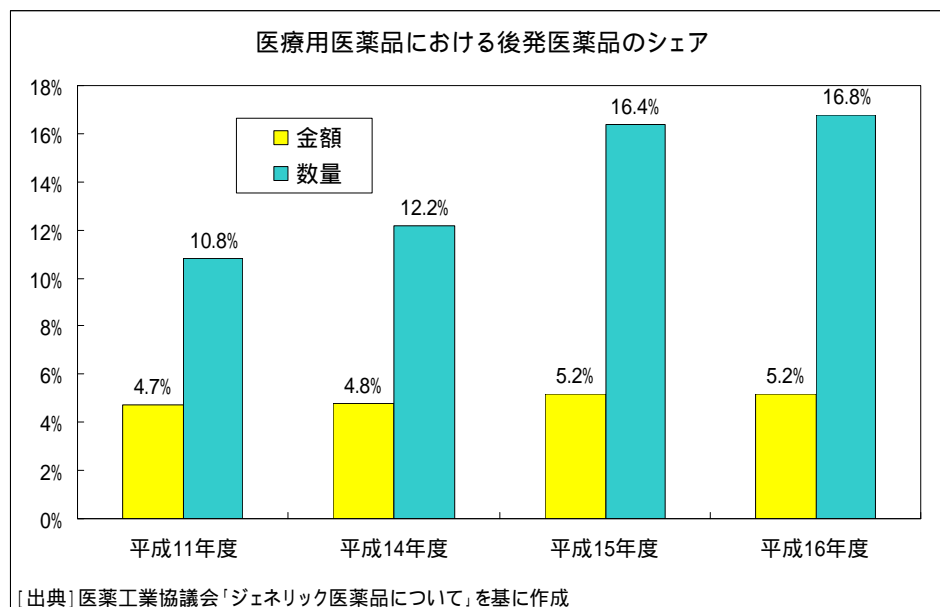


医薬品マーケティングあれこれ
第12回:ジェネリック医薬品の最新動向

数年来伸び悩んできたジェネリック医薬品（後発医薬品と同じ。以下、「ジェネリック」または「後発品」と略称する場合もある）が、各種の施策をきっかけに2006年から動き出した。この動きは今後加速することが予想される。4回に分けてジェネリック医薬品のマーケティングについて考える。今回は、ジェネリック医薬品の最新動向を取り上げたい。

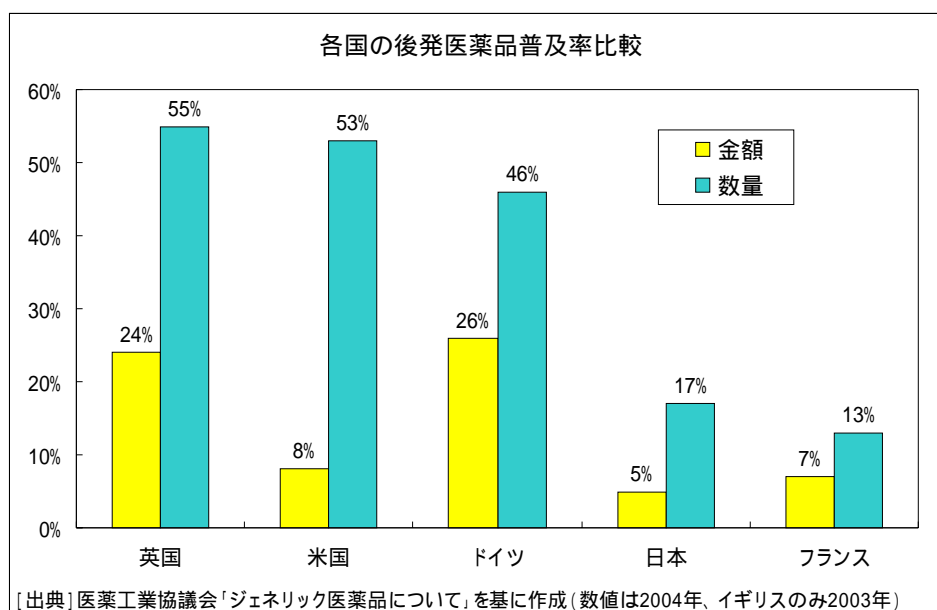
よく知られているように、医療用医薬品には新規に開発された「先発医薬品」と、その特許期間が満了した後、他メーカーが製造する、先発医薬品の有効成分と同一の「後発医薬品」とがある。後発医薬品は、有効成分の一般名で処方されることが多いので、前述のように「ジェネリック」医薬品とも呼ばれるのである。

ジェネリック医薬品は、先発医薬品のような膨大な研究開発コストがかからず、また申請手続きも先発品に比べて簡略化されているので、低価格で販売されている。ジェネリックがある医薬品を処方された患者は、保健薬局等で、先発医薬品に代えてジェネリックを選択することが可能で、その場合は薬剤費の自己負担が安くなる。ジェネリック医薬品は、医療費削減の有力な手段として注目されてきたが、次図に示すように、最近まで、数量はともかく、金額的には医療用医薬品全体の数パーセントのシェアに留まっていた。



このようなジェネリック医薬品のシェアは、次図に示すとおり、諸外国（フランスを除

く) に比べ非常に小さい。



ところが、2006年になってから、ジェネリック医薬品の普及を促進する動きが盛んになった。特に注目される動きは次の通りである。

ジェネリック処方・調剤加算

厚生労働省による使用促進通達

DPC (急性期入院包括支払制度) 病院の拡大によるジェネリック医薬品採用増加
「ジェネリック医薬品への変更化」を明記した処方せん様式への変更

特に重要な動きは と である。 については、別途取り上げる。 の処方せん様式については、2008年度から、ジェネリックを優先使用するよう、処方せん様式が変更された。このことによりジェネリックの普及がさらに、加速する可能性もある。

ジェネリック医薬品メーカーの動きも急である。次回以降で、ジェネリック医薬品をめぐる動きをさらに詳細に取り上げる。

(武藤 猛)